ハピカム
ミライデザイン会議

大分市

観光
Sightseeing

大分駅ビルや県立美術館の開業で、いっそうにぎわう県都・大分市。交通拠点として重要な役割を果たす一方で、観光地としての知名度不足は否めない。2019年にはラグビーワールドカップという国際ビッグイベントを迎える。食、歴史、風景―大分市が誇れるものは何か。日々、おもてなしの前線に立つ若手リーダーたちが意見を交わし、今一度古里の姿を見つめ直した。

大分駅前の大友宗麟像

まず自分たちの歴史を知れ

１日案内するプランは

吉田　早速一つのテーマからお話を聞きたいと思います。総合アドバイザーの小野正嗣さんは佐伯市蒲江出身で、「大分市は門外漢」と言われていました。「１日大分市を案内して」と言われたら、どんなプランでおもてなしをしますか。

松本　食に携わる者として食べ物を振る舞いたいと思いますが、なかなか難しいですね。佐賀関で魚を食べて、うみたまごや高崎山でしょうか。歩いて街なかを案内しながら、人の良さを伝えたい。

若手リーダー
郷土料理こつこつ庵代表取締役
松本宗三 さん

末田　大分市が初めての人には、歴史ある王子温泉とか。街なかの温泉を楽しみつつ、関あじ・関さばを食べて、うみたまご、ＯＰＡＭ（県立美術館）、高崎山に連れて行きたいです。

神田　田ノ浦ビーチの美しい風景も見せたい。うみたまごは頑張っても２～３時間しかつぶせないので(笑)、食や温泉を絡めて。

峯　まずは高崎山。それから大友宗麟ゆかりの場所を巡っていくとか。高崎山の裏に登山コースがあり、大友氏の山城の遺構が残っている。森林セラピーコースを体験しながら、戦国時代の大分市のまちの成り立ちや南蛮文化の背景を見ていくのはどうでしょうか。

吉田　市のプロモーションのポイントは。

峯　軸の一つは大友宗麟。昨年のデスティネーションキャンペーンでは、観光の大きな要素である食の中で、鳥天をピックアップしてプロモーションを展開しました。「大深度地熱温泉」として、温泉好きな人が立ち寄って楽しめる街なかの温泉も紹介した。都町や中央町には飲食店が集中しているので、観光の大きな要素として押しています。

吉田　県外客の反応は。

松本　最近は県北の空揚げが頑張っていて、空揚げやチキン南蛮に比べると、鳥天の知名度は高くない。団子汁やりゅうきゅうなど、もっと大分の郷土料理の知名度を上げたいですね。鳥天と空揚げとの違いを聞かれ、衣や下味など特徴を説明しますが、店によって胸肉、もも肉と使う部位が違い、空揚げに近い品もある。決まりがないから難しいが、今さら統一する意味はない。

吉田　磨きをかける方法はありますか。

松本　店舗ごとの努力しかないと思います。競争の結果でレベルが高くなる。もっと大分市の人に食べてもらって、食材の良さや誇れる食文化を感じてほしいです。私もそうでしたが、県外に出て帰ってくると食べ物がおいしいことに気付きます。

土日に行けば何かある

吉田　うみたまごの現状を教えてください。

神田　昨年４月、「あそびーち」という新しい展示を始めました。テーマは「ガラスのない水族館」。うみたまごは04年４月にオープンし、初年度の入場者数は127万人。高崎山の客もかなり増えて相乗効果がありました。前身施設のマリーンパレスの社史を勉強すると、昭和40年代に日本で一番客の入った水族館だったとか、初めて魚にショーをさせたとか、「初めて」が並んでいる。過当競争の中で生き残るために、今あるものを見つめ直し、どう新たな価値観を創出していくか。そこで生まれたのが、「あそびーち」という手法でした。

若手リーダー
水族館「うみたまご」ガイド主任
神田大朗 さん

吉田　大分駅ビルやＯＰＡＭができ、街なかの元気度はどうでしょうか。

末田　パルコがなくなり、若者が一時パークプレイスなど郊外に流れましたが、最近は街に帰ってきたと感じます。パンフェスやマルシェ、バルなどイベントも増え、土日に街なかに行けば何かあると、みんなが思うようになった。ＯＰＡＭと市美術館も近く、歩いて楽しめる街に変わったので、中心市街地を循環する「きゃんばす」などを利用して、大分市をもっと知ってほしいですね。

若手リーダー
おおいたインフォメーションハウス
企画開発部課長
末田志保 さん

吉田　他都市のプロモーションや、大分市の課題について聞かせてください。

山下　観光では街のユニークさが最大の鍵。自分の街とどう違うのかと。食もその街のソウルフードを食べてみたいと思うし、鳥天のように地元の人が食べ続けているものがなくてはならない。その土地の方言を聞きながらその土地の酒を飲むのは最高に楽しい。いかに観光客を呼ぶかより、自分たちのライフスタイルをどう伝えるかという肩の力を抜いた形でいいと思います。大分に来ている人の６割は九州から。転勤族や留学生を含め、訪れた人が大分の何を新鮮に感じ、自分の街とどう違うと感じているかを観察する必要がある。

小売業で新しい連携

吉田　自分たちが気付いていないことは多いですよね。

山下　例えば石川県金沢市は加賀百万石の伝統文化があるので、街のアイデンティティーが分かりやすい。一方、大きな工業団地があり、産業都市として成り立ってきたところは住んでいる人の多くは外から来た人で、地元に対する愛着が薄く、みんなを束ねるコンセプトがつくりにくい。ただ混沌（こんとん）とした面白さがある。象徴的なのはこつこつ庵かもしれない。外の人も地元の人も来て、地元のことが一発で分かる。どの都市も地元の生活文化や心のよりどころを見直すところから取り組んでいます。

松本　飲食店が一致団結して何かを盛り上げようとしても、なかなか足並みがそろわない。

峯　新しい郷土料理のアレンジメニューを考えても、商業ベースに乗せようとなると、フグの名店会や空揚げの組織のように中核になる人がなかなかいないので、誰と相談しながら進めたらいいのか難しい時がある。駅ビル開業が刺激になり、商店街など小売り関係では連携が生まれている。

山下　Ｂ－１グランプリの事務局関係者と話していたら、「大分はニラ料理がいける」という話になりました。富山市のご当地ラーメン「富山ブラック」のように、産業都市の労働者の食というソウルフードとしてのストーリーがある。その背景がどれだけ共有されているか。他のご当地グルメは来訪者の期待を裏切らないために、作り方やガイドラインを定めています。２、３人からでも、大分の鳥天はうまいんだと伝え、おいしいものを提供するためにつながっていけたらいいですね。

アドバイザー
ジェイティービー旅行事業本部観光戦略室
観光立国推進担当マネージャー
山下真輝 さん

ランニングに適した街

吉田　県全体の観光の中で大分市の位置付けを考えるのも未来図の一つかなと思います。

峯　シングルユースの数は県内１位。県内観光の拠点として利便性が高い都市とＰＲしています。

山下　これだけ高速道路網が便利になったら、交通のハブである大分市から片道１時間圏内は確実に市の観光資源。レジャーだけでなく、スポーツの全国大会や合宿、プロスポーツの観戦、コンサート、ビジネスや帰省など、大分に来る全ての人をツーリストととらえて、その人たちが何を求めているかを注意深く見ていかないと。

吉田　市内でお薦めの場所はありますか。

末田　最近自転車を使った観光が広がっている。別大国道を走ったり、秘湯を巡ったり。地域資源は豊富なので、もっと自転車で回れるように環境整備が進めば楽しくなりそう。

峯　県外の人から、大分川周辺にはランニングにいい場所がありますねと言われた。「走る」のに適した街だと。別大マラソンや国際車いすマラソンも有名なので、そういう売り出し方もありかなと。

若手リーダー
大分市観光課シティプロモーション
担当班主査
峯啓介 さん

吉田　歴史文化のプロモーションはどうなっていますか。

峯　町並みとして残っているのは戸次本町。帆足本家の酒造蔵とか、歴史背景を活用して町全体をＰＲしています。大野川合戦まつりもあり、大南地区は積極的で元気がいい。小藩分立の歴史があり、市全体として打ち出す難しさは感じています。

山下　福井市は近代日本の幕開けで活躍した由利公正らを軸に、2018年の明治維新150周年に向けて大河ドラマの誘致に動いていますが、一人一人の物語が面白い。大友宗麟一人にフォーカスするのではなく、周辺の人物も含めて広く捉えた方がいいのでは。街に残っている歴史のかけらや、南蛮文化を取り入れて先進的なことをやってきたＤＮＡがある土地として今のライフスタイルと結び付け、どうブランドコンセプトをつくるか。今、街歩きをしながら歴史や人々の暮らしに触れるテレビ番組「ブラタモリ」の誘致もはやっていますが、街歩きの大切な役割は地元の人たちの郷土愛の醸成。その中からエンターテインメント性があるものを観光客に提供すればいい。

マニアックな方向あり

吉田　まず地元の人に伝えなくてはいけない。

山下　多様性が日本の観光の面白さ。47都道府県独自の文化がある中で、大分は何がユニークなのかが問われる。自分たちが何者か知らずして語れない。

神田　大友宗麟もいろいろなエピソードがあるはず。掘り下げた情報に触れると、調べる面白さが出てくると思います。

末田　最近は古地図を見ながら歩くのがブーム。先日、戸次の鶴ケ城に行きましたが、とても眺めがよく、観光資源になると思いました。歴史が好きな人は団塊世代や高齢者だけでなく若い女性にも多いですし、大友館や庭園の復元ももっと話題になればいいのですが。

峯　辻野功先生（故人）が提唱した大分学など、地元の人が参加する取り組みがもっと必要かもしれません。

神田　マニアックな方向に進んでいく手もありですね。

吉田　大分のディープなスポットはありますか。

神田　王子温泉はすごく雰囲気がいい。地元の人が足しげく通う場所です。

末田　市内にはあたみ温泉、錦温泉やあしかり温泉もあって、歩いていて「こんなところに温泉が」という面白さがある。

吉田　万寿寺の座禅体験もいいですよ。

末田　最近、御朱印巡りをしているんですが、お寺や神社も行って初めて歴史が分かる。知り合いにはダムが好きな「ダム女」もいる。何が観光につながるか分からない。

遺産を生かしているか

吉田　2020年には東京オリンピック、19年には大分でラグビーワールドカップ（W杯）がある。山下さんは大分でも試合があった02年のサッカーW杯の時に、大分で仕事をしていたそうですが。

山下　1998年のフランス大会でナントを視察した際、誘致の理由を聞いたら、W杯を機にナントを世界にアピールし、企業や大学を誘致したいと話していた。冬季オリンピックが開催された長野県もそう。白馬を訪れる外国人スキーヤーは多く、それがオリンピックレガシー（遺産）。大分はW杯のレガシーを生かせたでしょうか。国際交流の機運が高まり、大分駅前でメキシコ人やイタリア人が酒盛りをしていた、あの時の街なかのにぎわいが忘れられない。国際イベントが来ると、街がこうなるのかとわくわくした。19年もヨーロッパ諸国やオセアニアなど各国から人が来る。しっかりとおもてなしができるように、自分たちの街を知る活動に取り組んでいかなくては。

内向きにも地道に発信

吉田　大きなチャンスを前に大分市の魅力をどう発信していくか。ここで分科会のキーワードを議論していきたいと思います。

松本　食も歴史も、まず地元の人間が説明できるようになりたい。

末田　地域資源を見直して、発見したものの発信を頑張りたいですね。

神田　県都として人・物・金・情報が集約され、交通網のハブでもある。今後はさまざまな国や文化、高齢化社会や障害者の社会参加など、多様性に向き合っていかなくてはならない。受け皿として何ができるかを模索し続けなくてはと思います。

峯　シティプロモーションを始める時に、郷土愛やシビックプライド、街への誇りについて議論しました。「好きになって」ではなく、自発的に街に関心を持ってもらえるように、内向きにも地道に発信していかなくてはと思っています。

松本　大分の人は親切と言うお客さんは多いです。

神田　コンテンツはきっかけにすぎず、思い出に残るのは誰とどんなことがあったか。みんなが訪れた人に気軽に声を掛けることが第一歩では。

山下　気持ちいい街は、市民が街の自慢話をたくさんできる。ライフスタイルツーリズムというか、観光地より、生活地としてどうユニークなのかが今の旅のスタイルに合っている。ここは別府や湯布院ではない。大分市に住んでいることにプライドを持てるかどうかが大切です。広域観光のハブならチャンスはたくさんある。

「協創力」で新たな創出

吉田　自分たちが面白いと思うことをＰＲしていくことですね。

峯　高崎山とマリーンパレスで観光地にした上田保元市長の話もストーリーとして面白そうです。

山下　有機農業の推進で知られる宮崎県綾町には、日本最大の照葉樹林を命懸けで守った町長のストーリーがあり、それをバックグラウンドに自然を大切にしようと、有機農業に取り組むようになった。大分にも何か物語があると思います。

吉田　ＯＰＡＭにも可能性がありそう。

末田　子ども向けのワークショップとか、いろいろなイベントをしています。

山下　定期的に建物のガイドツアーがあるといい。

末田　いいちこグランシアタとつながっているので、もっと街ともつながったら面白い。

コーディネーター
大分合同新聞記者
吉田正史

山下　私は「協創力」という言葉が好き。協力して新しいことを創り出すのは面白いよと盛り上げる。観光は一つのプラットホームかなと。

全員　いいですね。

吉田　その言葉をいただきましょう。今日はありがとうございました。

※リサーチ・アンド・ディベロプメント調べ（2015.3.16発表）不動産の物件検索サービス満足度調査において、掲載物件数の部No.1
NEXT Co.,Ltd.　ホームズ　検索